

私はミンダナオ島に生まれ、10歳の時来日しました。生まれ故郷のポロモロックはジェネラルサントスからマーベルに行く途中に通過する町で、パイナップル生産で有名なドール多国籍企業の影響を強く受け、発展してきた町でもあります。子供の頃に過ごした故郷の思い出は今でも鮮明に覚えています。



今回、帰郷した理由は二つあります。まず、子供の頃面倒を見てくれた大好きな日本人の母方のお祖母さんに会うためです。お祖母さんは第二次世界大戦後ポロモロックに移住し、今もポロモロックに住んでいます。もう一つの理由は日本企業に就職が決まり、仕事が始まると忙しくなりいつ帰郷できるか分からないため、入社する前に自分が生まれた地に戻りたかったからです。また、この機会にHANDSの活動を実際に見学したいという気持ちを持っていたからです。

私が見学した当日、スララ町タラヒクバランガイのバス停でロニーさんと友人の二人が出迎えてくれました。そこから、モーターバイクで45分位かけて整備されていない山道を通り抜け、村を目指しました。村に向かう途中は日本の地方とは異なる風景が広がり、また、日本では見ることもない現地人ならではのバイクの乗り方も見る事ができて面白かったです



村に着くと農作業をしていた男性たちが休みを取っていたので、自己紹介をしました。最初は私が現地の言葉を話すことにとっても驚かれましたが、すぐに村の方々ととけこむ事ができました。村で昼食をとった後、進行中のプロジェクトに案内してもらいました。その一つがバナナと他の作物を組み入れたアグロフォレストリーという農法です。また、ここ最近、需要が高まっていると同時に付加価値が高いゴムの木の栽培にも力を注いで

いることがわかりました。ロニーさんは、アグロフォレストリーによって安定的な収入確保ができ、土地の売却を防いで、村の存続が守られると言います。



今回限られた時間の中で見学をしましたが、環境に優しい農業とコストを抑えるように上手く工夫していることがとても印象に残りました。また、村にとって農業が生活を直接支えているため、安定的な収入の確保を実現してくれるアグロフォレストリーの重要性がますます高まると感じました。

今回故郷に戻り、親戚や子供の頃の友人などと久々に一緒に時間を過ごすことができ、最高の思い出をつくる事ができました。また、日本で当たり前と思っていることはフィリピンではそうでないので、日本で暮らせることに感謝しなければならないと改めて強く感じました。



卒業式会場で

レイクセブ町にある私立のハイスクールの卒業式会場で、元COWHED組合長メルチさんのお嬢さんの顔写真を発見。アテネオ大学ダバオ校を3番で卒業したというお祝いの垂れ幕だった。彼女はこのハイスクールを優等で卒業した。その左には4名の顔写真。同窓生で会計士、教員、看護師、警察官の国家試験合格者だ。

去年のクリストファーの会計士合格の報告を思い出す。改めて大変な快挙だったのだとわかる。
(相田)